



第 321 号

2026年(令和8年)

3月15日

中川村公民館



## ふなやま

3月は進学や就職で地元を離れる方が多いです。

半世紀前は交通手段が乏しく、東京までは指定席無しの急行電車で約半日かかりました。おまけに始発駅から座席がいっぱいになつてることが多く、途中駅で乗車しても座れないため、終点近くまで立ちっぱなしでした。

現在は座席指定の高速バスで約4時間で行けるようになり、仕事や遊びも日帰りが簡単になりました。

何年か先にはもっと便利になり、あつという間に都会に到着なんてことになる時代が近づきつつあります。

親元を離れての都会生活が始まりますが、嬉し楽しいことばかりではありません。心が折れることもあります。そんな時は、バスに乗って中川村に帰ってきてください。おいしい空気を吸えば、きっと心が和むはずです。

夢に向かって行つてらっしゃい。



# 令和7年度の公民館活動を振り返る

～公民館から 地域づくり 生きがいくり 仲間づくり を～

キーワードは、「集う」「学ぶ」「結ぶ」

今年度は、3つの重点目標を掲げて公民館活動に取り組みました。重点目標は下記のとおりです。

- ① 「これからの中川村」についてみなさんと共に考え、公民館から地域課題に取り組む。
  - ② 学級・教室・講座等の学習を推進し、青少年健全育成・男女共同参画・人権学習等の必要課題に取り組む。
  - ③ 住民の健康増進・体力づくり・運動機会の拡充と、それらを通じた「新たな交流の場づくり」に取り組む。
- そのなかから、今年度の公民館活動の振り返りとして一部を抜粋してみなさんにご報告します。

## 学級・教室・講座

今年度は、40年以上続く長寿講座「福寿学級(高齢者学級)」をはじめ、「小学生ふるさと教室」や「幼児すこやか学級」ほか、他団体との共催講座を含め、合計15講座、63回を開催し、多くの村民のみなさんの参加のもと、学習・交流をすすめてきました。

### ◇スポーツ×カルチャー教室

「スポカル教室」は、楽しく身体を動かしながら、その文化に触れ、歴史や背景と一緒に学ぶことで、より深く文化を理解することを目的としています。今年度は、村内に点在する「庚申塔」の歴史を、夜のウォーキングを通して学ぶ「庚申塔ナイトウォーク」を開催しました。

昨年9月8日(月)、中川村歴史民俗資料館の米山妙子学芸員



葛北地区の青面金剛像



講師の解説で「庚申塔」の歴史を学習

を講師に開催し、20名が参加しました。庚申塔は、江戸時代の民間信仰の石碑です。60日に一度の「庚申」の夜に眠ると、体内の虫が点に昇り悪行を報告して寿命が縮まるという言い伝えから、人々はその夜に集まり、飲食や歓談を徹夜で楽しみました。その集いの記念と、健康や安泰への願いを込めて建てられました。講座では米山学芸員に解説いただきながら、かつての人々の暮らしに思いを馳せ、夜の葛島地区を歩いて庚申塔を巡りました。参加者は、普段何気なく目にする石碑の歴史を学び、村の文化や魅力を再確認する貴重な機会となりました。

### ◇Enjoy!スポフェス

「Enjoy!スポフェス」は広く住民の皆さんにスポーツに触れる機会を提供し、運動不足解消のきっかけにしていたいただくことを目的としています。11月30日(日)、天のながわ河川公園を会場に、ディスプレイ体験、ウォーキングサッカー体験、第3回ミニモル杯が開催され、多くの方にスポーツを楽しんでいただく機会となりました。第3回ミニモル杯は、村商工会のモルッククラブ「中川ミニモル倶楽部」にご協力いただき、12チーム約50名の方が参加されました。モルックは、木の棒を投げて数字の書かれた棒「スキツトル」を倒し、点数を競うフィンドランド発祥のスポーツです。複数本なら本数、1本ならその数字が点数となり、計50点ぴった



りを目指す。超えると25点に戻るため、どのスキツトルを倒すかの駆け引きや頭脳戦があり、シンプルながらも奥深いスポーツです。下は小学生からは約90歳のご高齢の方まで幅広い世代が集まり、同じコート上で白熱した試合を繰り広げました。狙い通りにスキツトルが倒れるたびに歓声上がり、世代を超えてアドバイスを送り合ったりハイタッチを交わしたりと、スポーツを通じた温かい交流の輪が広がり、心地よく汗を流しながら地域の絆を深める一日となりました。

◇ランニング教室

令和7年度のランニング教室は、講師に箱根駅伝出場経験もある村内在住の現役ランナー桃澤大祐さんをお迎えし、4月に開催される「長野県市町村対抗駅伝競争大会」への出場を目標に開催されました。講座では、ランニングの基礎から、桃澤さんが普段行っている実践的なトレーニングまで丁寧に指導をいただき、最終回は「長野県市町村対抗駅伝選考会」に参加することで、その成果を確認しまし



◇自然探訪講座

自然探訪講座では、村の豊かな自然環境を活かした動植物の観察を通じて、自然環境への理解と環境保護の意識を高めることを目的としています。

今年度は、絶滅危惧種の「ゲンジボタル」「ツキノワグマ」の観察と「ツキノワグマの勉強会」

の全3回を開催し、延べ250名と大勢のみなさんにご参加いただきました。

昨年8月21日(木)に「ツキノワグマの勉強会」を開催しました。近年、村でもクマの目撃情報や被害が増えています。幸いにも村では人的被害の確認はされていないものの、人家の近くの柿の木や蜂の巣箱などで被害が確認されています。こうしたクマ被害を「地域の課題」と捉え、まずはツキノワグマの生態や、ひとり一人ができるクマ対策を学ぶため、NPO法人信州ツキノワグマ研究会の瀧井暁子さんを講師に勉強会を開催しました。

講座当日は約90名が参加され、勉強会と合わせてクマの剥製などを会場に展示し、見て触れて学びを深めることができました。



会場の外には「剥製・毛皮など」が展示され、見て・触れて学びました。



公民館自然探訪講座では引き続き、みなさんと一緒に学びながら、村の豊かな自然環境を守り未来に繋げていくために各団体や関係機関と協力して講座を開設していきます。ぜひご参加ください。

中川人形保存会

二子玉川学童疎開帰郷80周年 特別公演

公民館では、中川人形保存会と共催で伝統芸能「人形浄瑠璃」の保存に取り組んでいます。中川人形保存会は、平成24年4月の発足以降、日々の稽古に加えて定期公演の開催や、各種催し物への出演、西小学校人形クラブでの指導など精力的に活動しています。

昨年11月2日(日)には、第12回定期公演に合わせて、「二子玉川学童疎開帰郷80周年特別公演」が中川文化センター大ホールを会場に、当時の疎開児童の方々をはじめ、世田谷区より松村副区長、知久教育長らを来賓としてお招きして開催しました。

当日は、オープニングで記録映像「中川村と二子玉川く人形がつなぐ平和と未来」が上映されました。当時を知る方々の生の声とともに、映像で戦争の歴史や中川村と二子玉川の関係



出演された西小学校人形クラブの児童たち



村の人形浄瑠璃の歴史資料なども展示

順札歌の段々、「日高川入相花王く渡し場の段々」が披露され、村内外から144名が来場されました。会場外には中川村の人形浄瑠璃の歴史資料などが展示され、節目となる特別公演が盛大に開催されました。学童疎開での二子玉川との交流の歴史やその思いを、村の伝統芸能「人形浄瑠璃」が架け橋となり繋いでいます。

公民館も引き続き、中川人形保存会と協力して、次世代へ「思いをつなぐ」人形浄瑠璃のお手伝いをしていきます。

公民館活動への要望などは、お気軽にご連絡ください。令和8年度も、多くのみなさんの参加をお待ちしています。

話題あれこれ

卒業式の歌 今昔

卒業式の歌の変遷

歌は世につれ世は歌につれといわれますが、卒業式で歌われる歌もまたしかりです。かつて卒業式の歌の定番は「仰げば尊し」や「蛍の光」でした。冗談で「仰いで尊い先生つている？」とか、LEDライトの時代に「蛍を集めた光や、月に反射して放つ雪の淡い光で勉強をした？」という情景を想像するのはなかなか難しいのです。ちなみに教室に教壇も無くなった今、先生の立ち位置は子ども視線の斜め上あたりで、決して仰ぎ見るような場所にはいないということだと思えます。先生の存在は、今も子どもたちの尊敬の対象であることは間違いありません。

では、その後の「卒業式の歌」はどのように変わったのでしょうか？合唱曲・ポップスなどを中心に、その時々流行っている「卒業」にふさわしい曲が選ばれるようになってきました。「大地讃頌」「旅立ちの日に」「手紙」捧啓十五の君へ「贈る言葉」などは多くの人の記憶に残っていると思います。これ以外

外の多くの歌の中から代表的な曲を表1（作者略）にまとめました（とてもまとめきれませんが）。自分たちが歌った曲はあるでしょうか？心に沁みる良い曲がいっぱいあります。時代には関係なく、名曲は歌い継がれていくのです。

・ 卒業写真
・ 乾杯
・ 翼をください
・ 瑠璃色の地球
・ さくら
・ 世界に一つだけの花
・ 栄光の架け橋
・ 花は咲く
・ 旅立ちの日に
・ ほらね
・ YELL
・ 365日の紙飛行機
・ いのちの歌
・ 虹
・ あなたへ
・ 時の旅人
・ 3月9日
・ 正解
・ 水平線
・ あなたがいることで
・ 僕のこと

表1



中川中学校卒業生合唱の様子

卒業ソングに込められた思い 卒業式を演出するのに歌は欠かせません。曲調は厳粛で、やはりバラードの曲が多いと思います。ピアノの前奏だけでウルツとしてしまう曲に、当の卒業生は勿論、先生方や親たちは在学中の子どもの姿と成長を思い出し目頭を熱くするのです。

曲の中の言葉から歌に込められた思いを探してみます。「希望・友・光・勇気・翼・夢・明日・大空・平和・桜・旅立ち・涙・不安・信じる・いつまでも・愛・故郷」など数えればきりがありますが、別れの寂しさや次の出会いに期待している時の歌に込められた思いは、大きく二つに分けられるようになります。それは「明るい未来

へ」と「ありのままの貴方の大切さ」ではないかと思えます。

東西小学校、中学校卒業式の歌 今年の中川村の各学校の卒業式の歌と歌詞の一部です。どれも旅立ちにふさわしい選曲です。

・ 東小学校 — 絆 —  
「桜咲くあの日 希望と夢にあふれていた大切な仲間(中略)大切な絆いつまでも切れないように ずっとずっと守り抜こう 心の中でつむいでいく(後略)」

・ 西小学校 — 旅立ちの日に —  
「白い光の中に山なみは萌えて(中略) 勇気を翼にこめて希望の風に乗れ この広い大空に夢をたくして(中略) いま別れるとき飛び立とう未来信じて(後略)」

・ 中川中学校 — あなたへ 旅立ちに寄せるメッセージ —  
「(前略) 愛と涙そして知るだろう人生という名の迷路の果てに信じあえる事の喜びと悲しみをした分 優しくなれる事を(後略)」

自分の応援ソングとして  
不思議なことに卒業から何年も経つと「何を歌ったのか覚えていない。」という人が意外と多いのです。曲名よりも「ふざけていた」とか「真面目に歌わなかった」とか当時の状況を思い出す人が多いのが印象的です。



「男子、ちゃんと歌って！」と先生や女子に叱られたであろうことは容易に想像できます。それはいつの時代も同じです。

今「歌なんかめんどくせー。」と思っっている思春期真っただ中のみなさんも、「良く聞くといい歌だなー」とか「懐かしい」とか「泣けるー」と思う日が必ず来ると思えます。もしかしたらその時が大人になった証なのかもしれません。社会人の卒業ソングはありませんから…。

人生には紆余曲折があり、順風満帆とはいきませんが、卒業式の歌を聴き、来し方を思い出すのに三月は最適です。何歳になっても一瞬にして青春の風景の中に戻ることができ、また前を向いて歩きたす一助になると思うのです。

(朝)

# みんなの 広場

## 好きな動物と

### 楽しく過ごす日々

三共 小松 壮一さん

私は30年以上前に、職場の方から譲られた犬を家族と共に飼っていました。父が「コロ」と名付け、かわいがっていました。当時は外飼いでご飯の残りのような質素な餌を食べさせていて、今思えば、かわいそうなことをしたな、と思っています。月日は流れ、ペットを飼うなんて、想像もしていなかったのですが、5年ほど前に、息子から「職場の倉庫で子猫を保護したが、引き取り手がいないから連れて帰る」と連絡が入り、本当に連れて帰ってきました。生まれて2週間ほどの雑種キジ白雄猫で、息子が「大福」と名付けて、その時から猫中心の生活が



ウル

マル

ミミ



くつろぐ「マル」

始まりました。ケージ・キャットタワーなど、気が付けば6畳間がほぼいっぱい位の猫部屋が完成していました。その後、猫譲渡会で出会った黒雄猫（名前は元飼い主が名付けた「ミミ」多分1歳半）と目が合った瞬間、家猫として迎えることを決め、それから3年近く同居しています。

最初の猫「大福」が2年同居したところで突然の病で亡くなってしまいました。その後半年ぐらいたった時に、縁あって茶白雄猫を家猫で迎えることになりました。名前は元飼い主に名付けられた「ウル」、ビビりな性格でなかなか心を開いてくれませんが、たまに見せるしぐさが愛おしいです。

そして現在、半年前に家の近くでうずくまっていた、サバ白

雄猫（初めて私が「マル」と名付けました）を飼い始め、現在3匹の雄猫と生活しています。餌やトイレ等の世話も大変ですが、それ以上に家族全員猫に癒される日々を送っています。

2年前から鶏も飼いだしました。現在3羽、鶏小屋とサークルを手作りしました。卵も産んでくれるので家計的にも助かっています。私と顔が合うと羽を広げて走って近づいてくるしぐさもかわいいです。

こんなに動物好きだったなんて思わなかったですが、今では動物を介しての家族の会話も増えてよかったですと思っています。



3羽の鶏

## 村の暮らし

竹ノ上 久保田さちさん

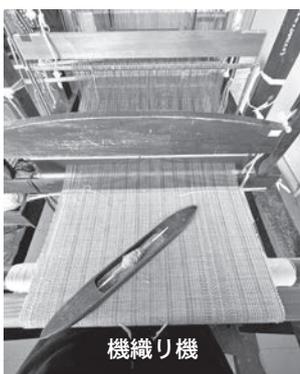
わが家は娘たちが6歳と3歳の春に愛知県から中川村に移住しました。そしてあつというま



村の景色

ます。多重業務に迫られる仕事柄、静かに変わらぬその場所にある自然の存在に生命力を分けもらっていると感じます。

そして2年前、村暮らしの楽しみがひとつ増えました。村の文化祭の展示で興味があった「機（はた）ごころの会」に入会し、機織りを教えていただいた。使われています。機ごころの会は、使われなくなった機織り機を何機も引継ぎ1999年から活動しています。養蚕糸を紡ぎ、布を織り、衣類を縫うことが生活の一部だった時代の女性たちに、一から教えてもらったそうです。当時のエピソードを聴きながら、布を織りあげていく作業はとて心地の良い時間です。活動は中川村青年婦人会館で、月曜と土曜日に開催しています。機織りに興味のある方にぜひ体験に来ていただきたいです。縦糸と横糸を織り重ねて表情のある1枚の布が完成するのは、とても充実感がありますよ。



機織り機

に15回目の春を迎えます。自然豊かな場所で生活と子育てをしたいと夢を思い描き、一家で中川村にやってきて、村暮らしの心地よさと、美しい村の風景を日々発見することになりました。娘たちは児童クラブ、放課後こども教室、子どもキャンプなど学校以外にも自分たちの居場所がありました。飯田市に通勤し村の友人の少ない私よりも、娘たちのほうが村内に多くの大人の友人がいて、チャオや図書館に行けば今でも「〇〇ちゃん！元気？」と声をかけてもらえます。娘たちが家庭以外の安心できる場所で多様な価値観に触れて、見える世界を広げてもらいながら、娘たちが成長したことを実感しています。

移住後、私は土や植物に触れ、四季の食や自然の変化を五感で感じ、地球の一部に地に足をつけて暮らしている充実感を得ています。「あの場所から見る中央アルプス」「あそこの南天畑」「あの山のススキ野原」などなど、美しい場所を発見しては、その場所の春夏秋冬を楽しんでい



歌声でつなぐ村の輪、和Wai!

「歌い人ながわ」

代表 湯澤 美保さん (中組地区)

こんにちは。私は合唱を楽しむグループ「歌い人ながわWa」の代表を務めています。この場をお借りして、グループの誕生の経緯や活動内容を紹介します。

一昨年末、それまでであった女性コーラスのグループが解散し、村内に合唱のグループが何もない状態になってしまいました。

「村に歌声が響かなくなってしまうのはとても寂しいね。何とか新しい合唱のグループを作れないだろうか」と、有志数名が集まりました。

まずはどんなグループにしたか話し合いました。「気軽に歌えるグループがよいね」「年齢や性別を問わずに、いろいろな人が参加できるといいよね」等、新しい合唱グループの具体的なイメージが少しずつ見えてきました。

続いてグループの名前を考えました。「○○合唱団」「アンサンブル○○」等、オーソドックスなものや、合唱初心者の方が壁を感じてしまうようなものは極力避けることにしました。誰でも気軽に参加してもらえよ

うな名前にしたという強い思いから「歌い人ながわWa」に決定しました。Waには、ながわで輪になって和やかに、平和に歌い続けたい！という願いが込められています。

さて、次はメンバー集めです。多くの村民の皆さんにお声がけしたいと思い、公民館に支援していただきました。趣味発見講座として、昨年度6月〜8月に計4回開催していただき、興味関心がある皆さんに参加してもらいました。

現在は20代〜80代の男女15名



趣味発見講座の様子

ほどで、月に2回月曜日の夜7時からNVサウンドホールで歌っています。

曲目はメンバーからのリクエストで選んでいます。これまでに「翼をください」「野に咲く花のように」「いい日旅立ち」「シルエット・ロマンス」「しゃぼん玉」「ずいずいずっころばし」「増生の宿」など20曲ほど歌ってきました。

最初のうちはどの曲も斉唱で歌っていましたが、できそうな曲から少しずつ低音と高音に分かれた二部合唱にして、ハーモニーを楽しむことも出来るようになってきました。

昨年11月には、「村の文化祭のステージの部」にも思い切っって参加しました。ステージ参加は強制ではなく、個々の自主性を尊重しました。できたてホヤホヤの合唱グループでどんな発表ができるのかちよっぴり心配もありましたが、ア・カペラの二部合唱で楽しくハーモニーを奏でることができました。響きのよいホールで歌える機会はとても貴重でありがたかったです。また、50周年記念の文化祭で、多くの村民の皆さんと一緒に村歌を歌えたのもよい思い出になりました。

新年最初の練習では、福山雅

治作詞作曲の「クスノキ」の2部合唱にチャレンジしました。これからも皆で楽しく歌い続けていきたいです。

「歌い人ながわWa」では、一緒に歌ってくださるメンバーを募集しています。お試し参加や単発飛び入り参加などもOKです。メンバー一同心よりお待ちしております。

【連絡先】

「歌い人ながわWa」代表

湯澤美保さん

(090-44462-7725)



文化祭ステージ発表の様子

あなたの「やりたい」をお待ちしています！  
「共に学ぶ」提案型講座 募集中！

近年、住民のみなさんの「やりたい」ニーズは多岐に渡り、様々な学びの必要性を感じています。公民館では、みなさんからの提案による講座開設に力を入れています。アイデアをお持ちの方は公民館までご連絡ください。

中川村公民館 Tel88-1005



文化祭50周年記念企画「みんなで村歌を歌おう」！

編集委員による  
リレーコラム!

## 中川村新たな学校づくりプロジェクト ⑫

～みんなで考えよう!  
わたしたちの新しい学校～

## ■部活動の地域展開に向けて

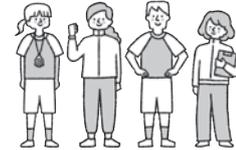
中川村中学校でも、部活動の地域展開に向けた準備が進められている。学校関係者へのヒアリングによると、令和8年度(2027年)3月末までに、土日の部活動は地域のクラブが担う形を目指しているという。これまで使われてきた「地域移行」という言葉も、最近では「地域展開」という表現に変わりつつある。学校から地域へ単純に移すという考え方ではなく、学校と地域が協力しながら子どもたちの活動を支えていくという考え方である。また、学校では教育的な役割をこれまで通り大切にしていきたいため、今後は地域の方の意見も聞きながら要綱づくりを進めていく予定だという。その際には地域の方にも意見を聞きながら進めていきたいとの話だった。部活動の地域展開は、学校だけで完結するものではなく、地域全体で考えていくテーマでもある。

## ■全国で進む部活動の地域展開

こうした動きは中川村だけのものではない。全国ではすでに具体的な取り組みが始まっている。

## ◆宇治市(京都府)

- ・放課後の活動を、学校ではなく「地域のスポーツクラブ」が運営
- ・先生の代わりに、経験豊富な「地域のコーチ」が指導
- ・万が一のけがに備え、市が「専用の保険」を準備
- ・指導者に「謝礼金」を支払うことで、ボランティアの善意に甘えず、責任ある指導体制を確立
- ➔ 善意だけでなく、責任と役割が明確になっている



## ◆柏市(千葉県)

- ・市とスポーツ協会が協力し、地域全体をまとめる「専用の窓口(協会)」を設立
- ・市が補助金を出すことで、家庭の負担が急に増えないよう配慮
- ・保護者説明会を複数回開き、みんなの不安を解消しながら進める
- ➔ 「対話」を大切に、地域全体でゆっくり着実に移行を進めている



## ■中川村だからこそできること

都市部のような大規模法人の設立は容易ではない。しかし、小さな村だからこそ「顔が見える距離感」という強みがある。中川村の学校現場では地域住民を巻き込んだ多様な取り組みがいくつも形になっている。

- ・「東小応援隊」という組織が、調理実習などの総合学習に参加している。
- ・東小学校家庭科のミシンの授業に地域住民がボランティアで指導にあたっている。
- ・田んぼ学習を地域住民と共同で行っている。
- ・西小学校花壇の手入れをボランティア団体がやっている。
- ・中学校フリーラーニングで地域住民が先生(アドバイザー)として活躍している。



こうした地域住民との関わりの中に、部活動の地域展開を成功させるヒントが隠されているのではないのでしょうか。

## ■もう一つ考えたいこと

こうした可能性を考える一方で、もう一つ整理しておきたい点がある。部活動は単なる体験の場ではなく、継続的な努力や仲間との協働を通じて成長を促す教育活動でもある。月に一度の関わりだけで、その教育的側面を十分に担保できるのだろうか。

参加のしやすさは大切だが、それだけでは足りない。どのような力を子どもたちに育みたいのか。体力なのか、協働性なのか、地域への理解なのか。目標を共有しなければ、活動は単発のイベントにとどまってしまふ。地域参画を進めるのであれば、「頻度」ではなく「目的の共有」が欠かせない。

すべての住民が毎週参加することは現実的ではない。しかし、年に数回でも、数時間でも、関われる入口が整っていれば、参画の裾野は広がる。その上で、教育目標を共有し、継続性を設計することができれば、地域と学校はより深く結びつくはずだ。

部活動の地域移行は、教員の負担軽減策であると同時に、地域が子どもとどう関わるかを問い直す機会でもある。小さな村だからこそ、丁寧に議論し、試行錯誤しながら最適な形を模索できるのではないだろうか。



退院直後、長男の初抱っこ

長男です。父親、母親でもなく、本当に99%の確率で、動きだして音がすると不安そうな顔をします。だけど気になって追いかけるのですが、最

【誰に似ていますか?】  
【優希くんのおもしろエピソードはありますか?】  
ロボット掃除機が怖いみたいで、動きだして音がすると不安そうな顔をします。だけど気になって追いかけるのですが、最

★☆☆☆☆  
いろいろとお忙しい中、インタビューを受けていただきありがとうございます。元気に大きく育つてくださいね。



初節句

花見団子は、赤は「桜のつぼみ」、白は「名残の雪」、緑は「新緑」を意味し、厄除けや春の喜びを表す。  
醤油ダレでいただくみたらし団子は、5個で人の五体を表し、下鴨神社のみたらし池に由来する。4個の串刺しのものがあるのは、江戸時代1串4文で売るために減らされた名残である。それぞれの団子の由来に思いを馳せ、春の雰囲気味わいながら団子を楽しみたい。

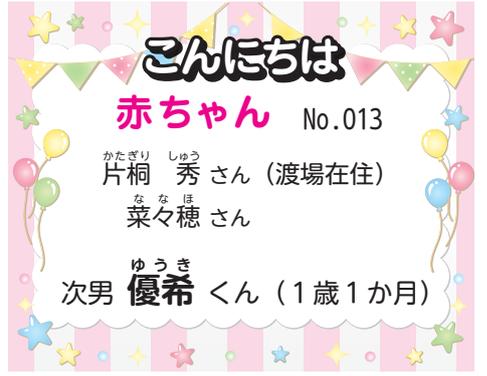
【生まれた時のエピソードを教えてください】  
無痛分娩を希望していたので縁もゆかりもない県外でのお産になりました。計画分娩のため予定通りの日程で入院し、準備

【名前の由来は?どのように決めましたか?】  
出産当日まで決まらず、産まれて顔を見て決めよう!ということになりましたが産まれても結局全く決まらず。(笑)  
私が『優』の漢字を入れたいと直感で思い、長男の『だいき』の最後の字の『き』を入れて同じような響きになるように『優

【お子さんが生まれて生活で変わったことは?】  
7年ぶりの赤ちゃんなので、部屋を赤ちゃん用に再度模様替えしたこと。  
長男と違ってよく食べる子なので食費がアップしたこと。  
【優希くんのおもしろエピソードはありますか?】

【優希くんの好きな食べ物は何?】  
よく食べる子で、最近はずが大好きです。チーズを食べ過ぎて、うんちが真っ白になって焦った事があります。(笑)  
【お兄ちゃんそつくりだね】  
「お兄ちゃんそつくりだね」と言われます。長男を小さい頃から知ってくれてる人にも『本当に小さい頃の長男そのままだね!』と言われます。

【最後に、ご両親から優希くんに一言】  
秀さんから:  
私たちの元に生まれて来てくれてありがとうございます。よく食べて、よく笑ってくれて、賑やかな家族になりました。成長する姿が楽しみです。  
菜々穂さんから:  
騒がしい我が家に来てくれてありがとうございます!とにかく健康で元気で毎日、笑いながら過ごそうね!!たくさん楽しいことしよう!



万端で挑んだのですが、促進剤を投与され『多分今日中には産まれるよ』と先生に言われ、促進剤を何回か使っても全くお産が進まず。先生にも『普通ならこの時点で90%は進んで分娩になるはずなんですけど、その10%やねー』と言われ結局その日は出産には至らず。次の日の夕方によくやく生まれてくれました。長男も立ち会いに参加できたので、産まれた瞬間、感動で泣いているのを見た時には何とも言えない感動がありました。



生後3ヶ月

最終的には振り返りにあい、逆に追いかけて泣いて戻ってきます。(笑)

3月から4月はいよいよ春本番。春の彼岸、桜の花見の季節でもある。彼岸には仏様にぼたもちやお団子を供えたりする。また花見には「花より団子」と団子を楽しむ人もいます。団子は穀物の粉を丸め、蒸したり茹でたり焼いたりした物をいう。穀物の具材や、味付け材料の違い、また串に刺すか刺さないか、そして数は何個にするか、供え方や楽しみ方はいろいろである。彼岸団子は白く串に刺さないのが特徴で、「六道」にちなんで6個、極楽浄土をめざす7個あるいは十三仏の導きを願う13個を器に盛る。敷く半紙や懐紙は平らな辺を仏像に向けてるのが作法である。

うちょうらし